

## ■釧路公立大が快勝、室蘭工業大は粘り勝ち。3年ぶり、すずらんボウル

北海道学生アメリカンフットボール連盟加盟校の春季オープン戦は第3日の6月26日、札幌市円山競技場の芝フィールドで、第46回すずらんボウルと銘打って2試合を行った。第1試合は釧路公立大がQB吉川佳吾（3年、岩見沢東高）のTDパスなどで北星学園大・札幌学院大合同チームに29-0で快勝した。守備合戦となった第2試合は室蘭工業大が第4QにRB北村朋也主将（3年、釧路北陽高）のTDランで決勝点を奪い、6-0で勝利した。第4日は7月10日、北海学園清田グラウンドで、秋の道学生選手権の前哨戦となる北海学園大と北海道大のライバル対決が行われる。キックオフは午後1時。

釧路公立大は第2Q2分、相手ミスからセイフティで先制すると、前半終了間際にQB吉川がWR高坂駿佑（2年、滝川西高）へ15ヤードのTDパスを決めて、8-0で折り返した。



QBが山口響生（2年、札幌清田高）に代わった第3Qにはパスでボールを進め、最後はRB田中巨人（2年、足寄高）の5ヤードTDランで14-0。第4Q7分にはDBも兼ねる高坂がインターセプトからそのまま持ち込みTD。8分にも相手ラン攻撃にハードタックルを浴びせてRB/LB牧野幹大（3年、札幌藻岩高）がボールを奪うと、そのまま24ヤードのTDリターン。PATも牧野が走りこんで29-0とした。

北星学園大・札幌学院大合同チームは先発の北星学園大QB中手龍一（3年、札幌静修高）のパスと同RB関一夢（3年、札幌あすかぜ高）のランで敵陣まで攻め込んだが、要所でパスインターセプトを喫して反撃を封じられた。

釧路公立大の高木瞭HCは「FBやDE、WRの1年生が結構使えたのが収穫。2人のQBはタイプが違うので試してみた。ともに崩れることなくプレーできた。秋のリーグ戦に向けて

もっと体力を付けたい」と総括した。昨年の道学生選手権新人賞で、この日も2TDと攻守に活躍したWR高坂は「勝てて良かった。まだ理想のキャッチには近づいていないが、秋季リーグではQBを助けられるキャッチをしたい」と宣言した。

一方、OLとLBを兼務した北星学園大の鈴木諒主将（4年、釧路江南高）は第4Qにインターセプトで意地を見せたが「相手とは走り込みの量の違いを感じた。今春は1年生5人、2年生1人が加わった。若い力をもっと生かせる雰囲気を作りたい」と秋を見据えた。札幌学院大のOL/DL市村脩渡主将（3年、富良野高）も「1年生が3人入り10人になった。7月の登録期限までに、部員みんなの力であと1人を集めたい」と名門復活へ決意していた。



第2試合は、昨年の1、2部入れ替え戦と同じ対戦となった。入れ替え戦は29-0で東京農業大が勝利したが、この日は第4Qに室蘭工業大の執念が光った。残り時間7分を切って、インターセプト合戦で攻守交代が続いた後、室蘭工業大がQBサックで攻撃権をつかむと、敵陣15ヤードからRB富樫司（2年、札幌清田高）が3連続ランで3ヤードまで持ち込み、最後はRB北村主将が飛び込んだ。

室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「少ない人数で4Qを戦えたことが収穫。課題は基礎体力不足。秋に向けて徹底的に基礎練習をやりたい」。力走のRB富樫は「去年大きく負けた相手なので不安があった。OBの力も借り、早朝練習で仕上げてきた。今年は、伝統のラン以外にも攻め手を増やしたい」と決意した。一方、東京農業大のOL/DL桜井颯太主将（4年、新潟第一高）は「去年はオーブ

ン戦なしで秋の試合に臨んだ。今年は春に試合ができて、1年生にも上級生にも課題が見つかったのが収穫。初めての1部のつもりで戦いたい」と秋を見据えていた。

